

あゆみ

J C H O
二本松病院

二本松市成田町1-553

TEL.0243-23-1231

FAX.0243-23-5086

<http://nihonmatsu.jcho.go.jp>

発行者: あゆみ編集委員会



～新年を迎えて～

明けまして おめでとうございます。

JCHO二本松病院となって2回目のお正月です。今年も皆様のためにしっかりと仕事をしていく所存でございますのでよろしくお願いいたします。

さて、私たちの組織は地域医療のために病院と附属の介護老人保健施設、訪問看護ステーション、検診を行う健康管理センターが力を合わせて仕事をしてきましたが、そこに昨年は訪問リハビリステーションを加えて、さらに地域医療、在宅医療に力を入れるようにしました。きっと皆さまのお役に立てるようになって考えております。

昨年は病院の設備に関してもいろいろ整備してきました。特に10月末から始まったMRI装置の工事に関しては、2か月間MRIの検査ができないし、工事中はうるさいし風が入って寒いしで皆様には本当にご迷惑をおかけしました。でもおかげさまで昨年の12月末に工事が終了し、以前よりはるかにきれいな画像が撮影できるようになりました。今後いろいろな分野で活用していきたいと思っていますし、ご利用いただければありがたいです。

今年のことに関してです。今年のリオデジャネイロオリンピックの年ですが、日本の裏側なのでオリンピックを見に行ける人はこの地域ではほとんどいないでしょう。みなさん、テレビを見て

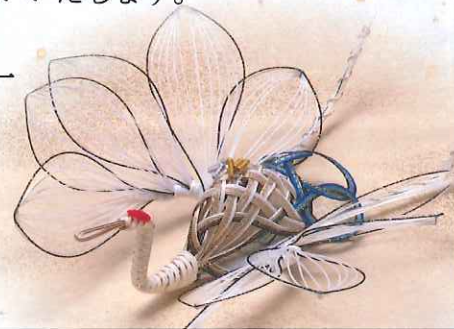
楽しんで日本の選手を応援していきましょう。

ところで昔からオリンピックやスポーツの国際大会は国威発揚の場として利用されてきました。そのため国ぐるみでドーピングをして金メダルをいっぱい獲得するような国もありました。最近もそのような報道がありましたよね。でも人の幸せ、国の豊かさはそんなものでははかることができません。どうか日本のスポーツの指導者、選手の皆さんはそんなことに手を染めないで自分の実力で戦ってください。選手の皆さんは自分のためにそして自分の国のために競技してほしいと思います。

いま世界では環境問題、特に地球温暖化の問題で議論が高まっています。COP21ではどうにか世界各国の温暖化対策の合意を得たようですが、今後どのようになっていくのかはわかりません。それにもまして心配なのは中東でのイラクの問題、シリアの内戦、それに続くISの台頭によって世界の平和が脅かされています。でも何とかみんなが知恵を絞って平和に向かっていきたいですし、皆様が幸せに生活できる1年であってほしいと思っています。

今年もよろしくお願いいたします。

院長 六角 裕一



2015年 互助会忘年会



新年のご挨拶

さ

「申(さる)」が今年の干支で、「厄災をサル」という年です。さて私にとっても今年も年男です。一層頑張って「見ザル、聞かザル、言わザル」ではなく、「見て、聞いて、言って、行動して」の1年にしたいです。私の生まれた昭和31年の申年には「もはや戦後ではない」と経済白書にかかれたそうです。あの第二次世界大戦の敗戦からわずか10年余りで「戦後ではない」と言った先人たち。先の震災からもう5年ですが、「もはや震災後ではない」と言える日々が早く来るといいですね。年末から年始にかけて、海外ではテロや核実験、国内ではバス事故など厄災で始まっているような今年ですが、言われている通り「厄災」が去っていくことをお祈りします。

副院長 柳沼 健之

る

「ルールを守って安全運転」

交通安全の標語として道路脇の看板などにも掲示されている「ルールを守って安全運転」という言葉を皆様もよくご存知だと思います。交通事故の死亡者数は昭和45年のピーク時には全国で1万6千人を超え、まさに「交通戦争」という時代を迎えました。

その後、事故減少対策も徐々に進み、信号機の設置や道路の改良などのほかシートベルト着用が義務化され、ABSや自動ブレーキなど自動車の安全性能も格段に向上しました。さらに二次医療機関や高次救急センターの設置など事故発生後の救命体制も充実され、平成27年の交通事故死亡者数は全国で約4千人余りとピーク時(昭和45年)の四分の一まで減少しましたが、近年は横ばい状態が続いています。

今後、さらに交通死亡事故を減らすためには、様々な対策を行いつつ運転者、歩行者のマナー、モラルなど広い意味での「ルール」を守る意識を醸成していくことが大切だと言われています。

振り返ってみて、病院における事故防止対策はどうでしょうか。建物や設備が近代化され、最新の医療機器を導入して安全管理研修やセミナーなど啓発活動を行っていますが、一方で医療の高度化、複雑化も進み、残念ながら事故がゼロにはなっていません。

当院が地域の皆様に安心を提供していくためには、当院の「ルール」である「病院方針」を改めて見つめ直し、職員一人一人の意識を高めていくことが大切です。今年も「ルールを守って安全運転」に心がけ、健全な病院運営に努めていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

事務長 藤原 勝

《病院方針》

- 1 医療の安全性を確保します
- 2 良質で満足のいく医療を提供します
- 3 患者様の権利を尊重します
- 4 安心できる開かれた病院を目指します
- 5 保健予防に関する啓発活動を行います

ど

ど「根性」で乗り切ろう

皆様あけましておめでとうございます。

お健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今、看護界では災害後5年目の復興途中でありますが、浜通りの看護師はもとより県内看護師が一丸となり、医療・保健の担い手となって活躍しております。当院もJCHOとなってから3年目を迎えますが、JCHOのミッションでもあります「住み慣れた地域で在宅医療を最期まで」の地域包括ケアシステムの構築のため、看護師ばかりではなく病院スタッフ全員が連携と役割遂行を積極的に推し進めています。特に当院看護課では、看護協会のテーマにもなりました「折れそうな心まで支えてみせる」の意気込みで「看護は元気をリレーする」を実行しています。看護職はきつい仕事の代名詞であるように、毎日毎日ヘトヘトになって仕事を終えます。でも翌日にはまた明るい笑顔になって元気に患者様に接しなければいけませんので短時間に疲労を回復し、エネルギーを充電し患者様にいつもと変わらない笑顔をお届けしています。

そこで、当院では2月から2回、全職員に仕事帰りに「心と体のリフレッシュ」を実践すべく、ヨガ教室を開催することになりました。ヨガは自律神経の活動が整い、瞑想によって脳が活性化し、ストレスが発散でき、病気の予防となり、そして何よりダイエット効果もあることが魅力です。

病院に来られる患者様すべての方々の不安を抱えて折れそうな心に、ぬくもりのある言葉をかけることができ、それぞれの看護師が安らぎと安寧をリレーでずっとつないでいけるように私たち看護課一同は、ど根性で今年1年もみんなで頑張ります。

総看護師長 佐藤 妙子

し

新年あけましておめでとうございます。

介護を取り巻く環境は年々多様化し、老健施設に対するニーズも高まってきております。

2025年には、団塊の世代が75歳以上になり、1.8人で65歳以上の高齢者一人を支えると想定されることから、住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供できるようにしていくという「地域包括ケアシステム」が求められております。

介護の一翼を担う当施設としまして、母体であるJCHO二本松病院、病院附属の訪問看護ステーション等との連携を今まで以上に強化し、利用者様に安心したサービスを提供できますようスタッフ一同努めてまいります。

本年もご利用者、ご家族、そして地域の皆様方の変わらぬご指導ご支援をお願い申し上げます。

附属介護老人保健施設 副施設長 遠藤 和彦

ユニフォームが新しくなりました!



看護師制服 デザインに注目!



病院病棟スタッフ



リハビリテーションスタッフ



附属老健理学療法士と一緒に



附属老健スタッフ



介護福祉士



栄養管理室スタッフ

1月から、病院・附属老健職員の制服がリニューアルしました。それぞれの職種でデザインや色を変えました。看護師は白地や紺色、介護福祉士はワイン色、リハビリや放射線、栄養士はアクセントカラーで分けております。新しくなったユニフォームで職員一同気分を更にUPさせ、患者さんへより良い医療や介護を提供してまいります。

総務企画 八田 美幸



栄養管理室では、患者さんに行事食を提供しています。

今月は、天皇誕生日・クリスマス・イブに提供した食事を紹介します。
平成28年も、安心・安全・美味しい食事を提供していきます。



天皇誕生日
青豆入り赤飯・鮭の照り焼き・ほうれん草のゴマ和え・大根と胡瓜の酢の物・白玉入りぜんざい



クリスマスイブ
人参ピラフ・ミートローフ・カニサラダ・人参スープ・クリスマスケーキ

編集後記

新年明けましておめでとうございます。申年というのは、昔から「梅を食べろ」とか「梅干を漬ける」とか言われている年だそうです。申年の梅は健康に良いし、縁起がいい。「申年」だけに、病気など悪いことが「去る」効果があるからとも言われています。編集委員一同、今年一年毎日梅を食べ(?)皆様に楽しんでいただけるような広報誌「あゆみ」を元気に発行していきたいと思ひます。
本年もよろしくお願ひいたします。

K・K記

